

EMメソッド (EMM)

Energy Maintain Mmethod

…To maintain the energy in human body

—— お問い合わせ、及びケアのご予約は **今すぐ** ——

090-4334-8053 渡部までどうぞ!

手技療法 **健悠館**

◎オステオパシー療法 ◎PNF療法・神経筋療法

〒799-1522 愛媛県今治市桜井4丁目2-23

【重要確認事項】

この『EMメソッド (EMM)』のテキストをご覧になった時点で、
また『EMメソッド (EMM)』を体験されたり、学ばれた時点で、下記の免責事項をご了承頂
いたものとみなさせていただきます。

1. 手技療法健悠館で、『EMメソッド (EMM)』の施術を受けられたり、学ばれたりした際
に、また、この『EMメソッド (EMM)』を活用された際に、利用者または第三者に何ら
かの損害が発生したとしても、その損害については一切の責任を負うものではありません。
2. この『EMメソッド (EMM)』には個人差があり、全ての方に対して効果を保証するもの
ではありません。
3. この『EMメソッド (EMM)』の内容について、書面による許可なく、その一部または全
部を複製、流用および転載、転売することを禁じます。

手技療法健悠館

渡部靖彦

N S C A 認定 パーソナルトレーナー

東洋オステオパシー協会認定 オステオパシー療法士

春日スポーツ医学研究所認定 筋ケア施療士

EMメソッド (EMM) …Energy Maintain Mmethod

…To maintain the energy in human body

1. はじめに

今回の第三回目になる中四国の勉強会では、『エネルギー療法』についても触れさせていただきます。ただし、『テクニック…』のご説明はほとんどありません…。なぜかと言うと、『テクニック…』と言っても、エネルギー療法においては、見かけ上『相手の方に触れる…。』あるいは、『手をかざす…。』と言うこと以外にはあまりないように思うからです。

エネルギー療法において、見かけ上のテクニックよりも重要なのは、

- ◆エネルギーそのものをどの様にとらえるのか…？
- ◆エネルギーレベルが良い状態にある体とはどのようなものか…？
- ◆エネルギー療法を行う際の、術者の心身をどの様なモードに設定し、整えるのか…？
- ◆そのエネルギーが、相手の方の体の中で、どう動こうとしているのか…？
- ◆エネルギー療法そのものを、どのように展開して行くのか…？

等々についての、『具体的な指標を持つことの方が重要である…。』と私個人は考えています。

今回の勉強会では、これらの事を、すでに私がメンバーサイトの方でもご報告させていただいている、ジストニアを克服しつつある24歳の女性と一緒に創り上げた、100%私の我流の『エネルギー療法』の考え方をベースにしてご紹介いたします。

また、今回は、まだエネルギーそのものを感じ取れる感覚が無い段階にある方でも、

『その感覚が無いままに“エネルギー療法、を施術できるようになってしまおう…。』

と言う事も目標にしています。

その為、既に各種エネルギー療法に熟達されている先生方には、物足りない…あるいは先生ご自身の考えとは相容れない内容になる可能性もあるかも知れませんが、あくまでも一つの参考例として、とらえていただければ幸いです。

《EMMを学ぶことのメリット》

皆様にとって、このエネルギー療法は、メインの手技とはならないものかも知れませんが…。しかし、このエネルギー療法を習得しておく、皆様が行なうメインの手技に対する、優れた補完療法となる可能性があります。例えば…、

- ◆エネルギー療法によって、事前に最低限の体のバランスを回復させておくことによって、皆様が用いているメインの手技がより効果的なものになる…。
- ◆逆にメインの手技の施術後にエネルギー療法を行うことによって、そのメインの手技の施術効果の持続性を高めることが出来る…。
- ◆『イネイト活性療法』の検査においても、事前にこのエネルギー療法を施術しておきますと、相手の方の体の状態を、少しでも良い状態に保った上で検査に入ることが出来ますので、根深くて、本来ならなかなか検出されにくい隠れた問題を、早期に検出しやすくなる…。

などの利点があると思います。

《今回のテーマ…》

◆難解なエネルギー療法を、いかにして簡単に理解して、誰でも確実に効果を上げられるようにするか！？

《上達の秘訣…》

- ◆イメージ力が重要…『意識した部位に、意識した作用が起こる…。』という考え方を受け入れる。
- ◆自分には見えていない物を、明らかに見えているかのように取り扱う…。
- ◆自分には感じ取れていない物を、さも感じる事が出来ているかのように取り扱う…。
- ◆『確信を持って行っ！』…確信を持って行わないと、結果が不安定になるッ！！
- ◆自分なりのモード設定を行なう。
- ◆快・不快に対する感度を上げる。
- ◆エネルギーを感じられない段階であっても、エネルギーが通るであろうルートを、リアリティを持って意識する（視線で追う…など）。
※この様な努力がやがて、今自分には感じ取れていない物を、感じ取ることが出来る様になる…ための近道です。そして…

最終的な目標の理想形は、『手が勝手に動く！』という状態になることです！！

2. EMMを学ぶための大前提…。

- (1) 『エネルギーの正体はなんだって良いッ！』…エネルギーが何なのかは一切追求いたしません。
- (2) そもそもエネルギー療法的に見た時の、理想的な体とは…！？エネルギーに対してどのように反応する体が理想的なのか…！？
 - 1) 抵抗なく不要なエネルギーが通り抜けていく。
 - 2) 必要なエネルギーを必要な量、必要な期間、体の中の必要な場所にとどめておき、有効活用することができる。
 - 3) 不要なエネルギー、不要になったエネルギーを速やかに排出できる
- (3) モードセッティング（その一例…）
 - 1) シューマン・ウェーブと同期する…共振共鳴する…事をイメージする…。
 - 2) 地面からの軸～上からの軸と合わせる…。
 - 3) エキスパンモード…全身が膨らむ～特に、手掌部～指先…。
 - 4) 後の音を聴く…。
 - 5) ウナに重心を置く…。
- (4) 快・不快の感覚を磨く。
 - 1) 掌の回転方向の違いによる快・不快の違い。
 - 2) 石と鉛による快・不快の違い。
 - 3) 物を置く位置の違いによる快・不快の違い。

(5) エネルギーを取り扱う際の指標。

- 1) 鬱滞したエネルギー、過剰なエネルギーを抜き取る。
- 2) エネルギーの通る通路にある障害を取り除く(エネルギーの通り道をクリアにする)。
- 3) 今あるエネルギーを循環させる。
- 4) 不足しているエネルギーを充填する。
- 5) かき回して、何らかのエネルギー反応を起こす。

最低でもこの5つの要素が、不規則に目まぐるしく入れ替わりながら展開されて行くことが多い。

3. 施術手順 (その一例…以下は、あくまでもほんの一例で、発想は全く自由ッ!!)

まずは、何らかのフローチャートに基づいてスタートしてみる。その際に、基本的に症状は追わず、全体のエネルギー調整をし、主訴のある部位の処置は、最後に行う。

(1) 施術パターンの例

1) 脳～脊髄～仙骨～四肢 (肩甲骨・腸骨とセットでとらえる) …これを基本パターンとする。

- 2) 免疫に関わる臓器…腋下リンパ、胸腺、脾臓、肝臓、胃・小腸。
- 3) 筋肉～内臓の相関関係を考慮した組み立て。
- 4) 骨～内臓の相関関係を考慮した組み立て。
- 5) 神経ラインを考慮した組み立て。

(2) 施術中の思考の展開例 (その一例…)

※私の場合、施術中にはエネルギーが、まるで意志を持っているものであるかの様に、複雑にその動きのパターンを変えながら動き続けているのが感じられる様に思えてしまいます…。具体的には次のような感じです…。

1) 脳～脊髄～仙骨～四肢

『脳～脊髄～仙骨～四肢』内のルート中の、任意の2点間で、双方向のエネルギーの流れの円滑さを感じ取って見たところ…いずれかの一方向に、エネルギーの流れの滞りを感じたとする…。

その流れの滞りを感じる方向へエネルギーを意識的に流してみたところ、エネルギーが逆流して来るのを感じ、その質感に鬱滞したのを感じたので、そのエネルギーを抜き取った…。

そしてこの事によって、結果的にエネルギーの滞りを感じていた方向への、エネルギーの流れが良くなった!

2) 免疫に関わる臓器…腋下リンパ、胸腺、脾臓、肝臓、胃・小腸

1) の『脳～脊髄～仙骨～四肢』の基本的な施術部位へのエネルギー療法を行った上で、追加で免疫に関わる臓器…腋下リンパ、胸腺、脾臓、肝臓、胃・小腸を行い、先ずは胸腺と任意の隣接部位の2点間で、双方向のエネルギーの流れの円滑さを感じ取って見た…。

その結果、いずれか一方へのエネルギーの流れの滞りを感じたので、その方向へエネルギーを意識的に流してみたところ、意に反してエネルギーが逆流して来て、その質感にも鬱滞したのを感じた…なので、それに逆らわず、逆流している方向へ、その鬱滞しているエネルギー流しながら抜き取った。

これによって、胸腺を含むエネルギーの滞りを感じていた方向への、エネルギーの流れが良くなった!

3) 内臓～筋肉の相関関係を考慮した施術

1) の『脳～脊髄～仙骨～四肢』の基本的な施術部位へのエネルギー療法を行った上で、追加で内臓～筋肉の相関関係を考慮した施術を行う必要を感じたので、下表をもとに、2点間でのエネルギー調整を行った！

内臓筋肉反射	
筋肉	内臓
大殿筋	生殖器・前立腺・子宮広靭帯
仙棘筋＝脊柱起立筋	膀胱
腰方形筋	盲腸(虫垂)
腹筋	十二指腸・小腸
腰筋	腎臓
腸骨筋	子宮・貯精嚢
中殿筋	更年期
内転筋	大腸(結腸)
大腿筋膜張筋	副腎
縫工筋	直腸
薄筋	小腸
後大腿筋	子宮・貯精嚢・生殖器
大腿四頭筋	副腎
梨状筋	胆嚢
腓腹筋	膀胱
ヒラメ筋	副腎／膀胱
膝窩筋	目・耳
第3腓骨筋	脾臓
長短腓骨筋	肺
前脛骨筋	肝臓・胃
後脛骨筋	上皮小体
上部僧帽筋	膵臓
中・下部僧帽筋	胃
前鋸筋	肝臓・胃
菱形筋	脳
肩甲挙筋	脊椎フィクセーション
広背筋	肺
大胸筋(鎖骨部)	甲状腺
大胸筋(胸肋部)	胸腺
棘上筋	心臓
大円筋	肺
三角筋	脾臓
小円筋	胃
棘下筋	
肩甲下筋	
烏口腕筋	
上腕三頭筋／肘筋	
上腕二頭筋	
腕橈骨筋	
回外筋	
円回内筋	
小指対立筋	
頸椎屈伸筋	
胸鎖乳突筋	
内部頸椎屈伸筋 (前・中・後斜角筋・頭長筋・頸長筋)	副鼻腔
深部頸椎屈伸筋 (頭板状筋・頸板状筋・頭半棘筋・頸半棘筋)	

4) 骨～内臓の相関関係を考慮した施術

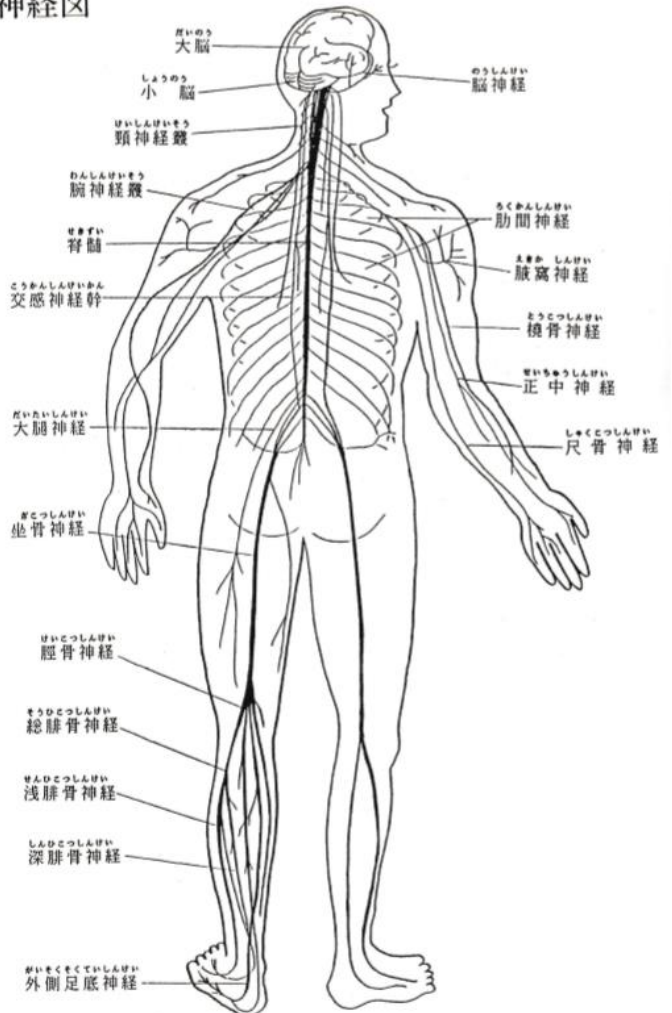
骨と内臓の連動	
後頭骨	仙骨
前頭骨	肝臓
蝶形骨	C2と関連
蝶形骨	心臓の傾きと関連
頭頂骨	副腎
後頭骨	脾臓
頬骨(右)	胆嚢
頬骨(左)	膵臓
上顎骨	肺
肩甲骨	腎臓

1) の『脳～脊髄～仙骨～四肢』の基本的な施術部位へのエネルギー療法を行った上で、追加で骨～内臓の相関関係を考慮した施術を行いたかったので、左表をもとに、2点間でのエネルギー調整を行った！

5) 神経ラインを考慮した施術

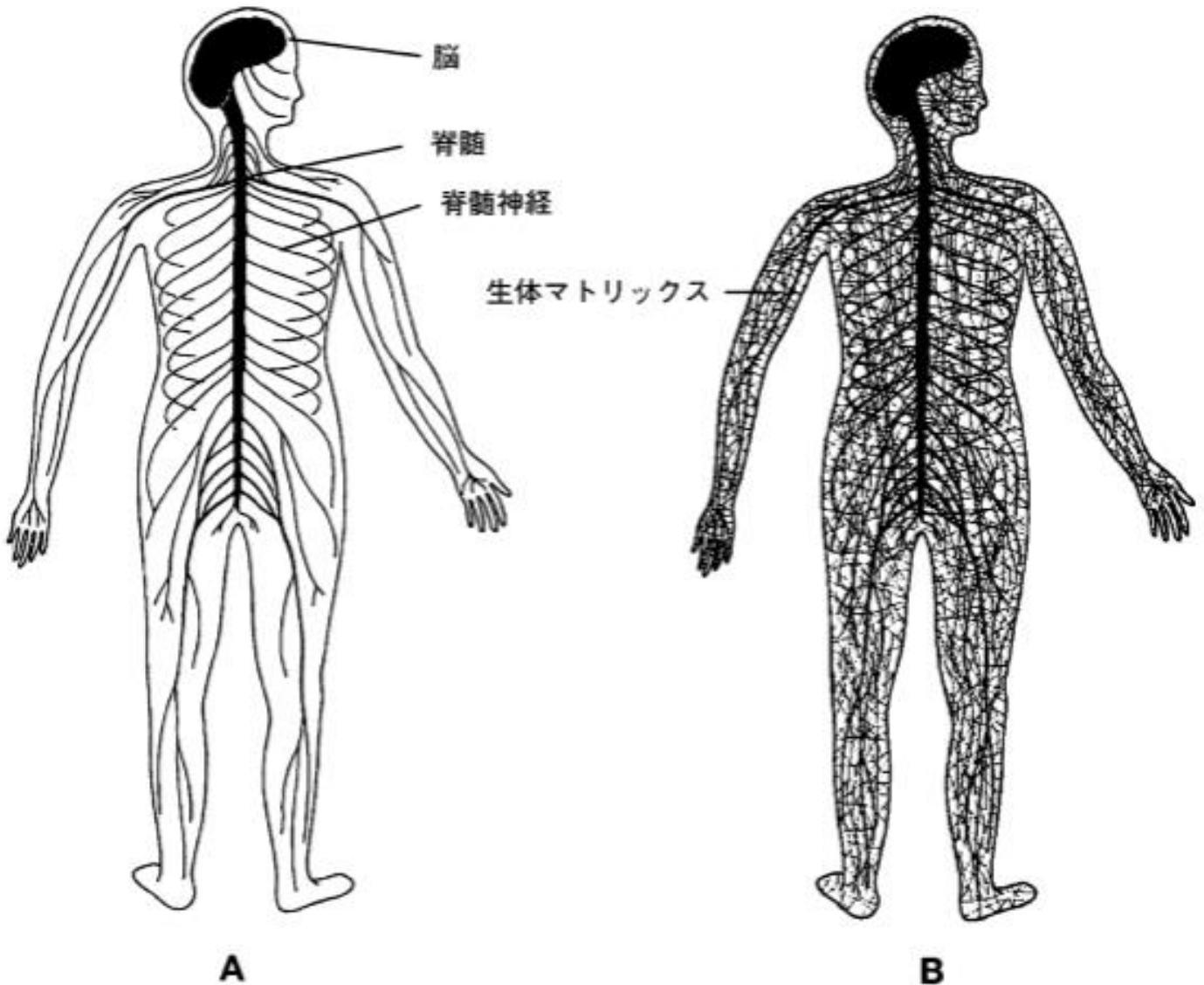
1) の『脳～脊髄～仙骨～四肢』の基本的な施術部位へのエネルギー療法を行った上で、追加で神経ラインを考慮した施術した施術を行いたかったので、右の神経図をもとにエネルギー調整を行った！

しんけいず
神経図



6) 連続体である生体マトリックスの特性も考慮する

現時点で、症状を訴えている部位に直接エネルギー療法を行っていても、『連続体である生体マトリックス（神経周囲系）』の特性上、自分の意思設定によってそのエネルギーがその患部経路で、この症状を起こしている根本原因が潜んでいる部位にまで確実に到達する…とすることをイメージして施術するのも一つの方法。



図A-1 A：生体の情報伝達系としてすぐに思いつくのは神経系である。B：神経系よりはるかに普遍的なシステムである生体マトリックスは、神経系を構成する細胞を含め、全身のあらゆる部位に広がる。神経系は生体マトリックスの各所に延びているとはいえないが、生体マトリックスは、神経系をはじめ循環系、消化管、リンパ系、皮膚などのあらゆる要素にまで達しているのである。（A：1973年出版のマッキーの著書『Introduction to Biology（生物学入門）』から引用）

4. 空間エネルギーのとらえ方と入れ方の一例

空間チェックで、クライアントに好ましくない影響を与えている周波数を持ったエネルギーに対して、逆の位相を持ったエネルギーを探す…。

- (1) 自分の中心より下？上？
- (2) そこより前？後ろ？
- (3) そこより右？左？
- (4) エネルギーを入れる部位も、空間チェックで特定する。

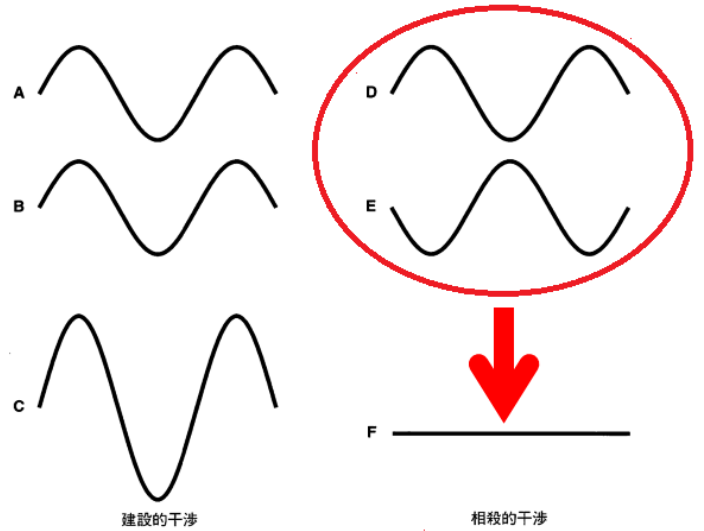


図14.2 波の干渉。建設的干渉 (A, B, C) とは、同じ位相の波が合わさってより大きな波が生じる現象をいう。相殺的干渉 (D, E, F) とは、位相が逆の波が合わさって互いに消し合う現象をいう。

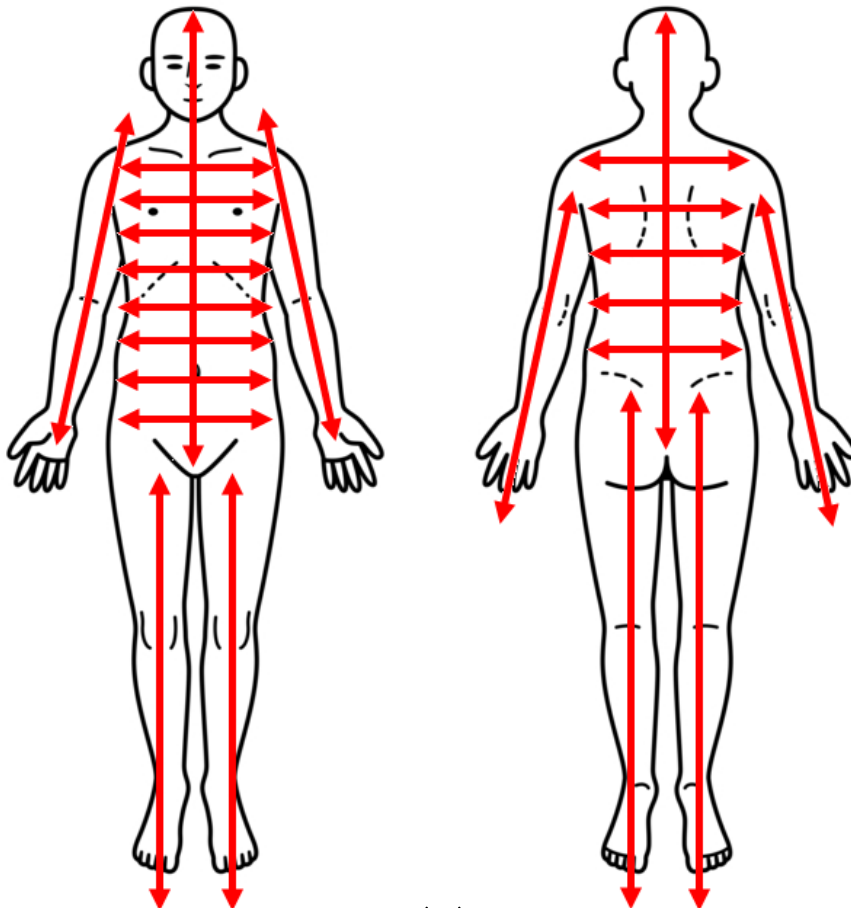
5. 次の段階へ

- ◆マニュアルを手放す…。
- ◆一切の思考から解き放たれる…。
- ◆どうすべきか…？ではなく、どうしたいか…？
どう感じるか…？を重視する。
- ◆手が勝手に動く…エネルギーが何をしようとしているのかが感じられるようになる状態を理想とする…。

最終的な目標の理想形は、『手が勝手に動く！』という状態！！

6. 参考資料

- (1) エネルギーを通すラインの一例。



(2) エネルギー療法の作用機序。

手、指先から質量のない物質(エネルギー)が放射→結合組織(繊維組織、細胞骨格、核、ミトコンドリア)→振動→電気→電磁場(コヒーレント振動)→体内・外に伝播(フローリッヒ振動)→流動電位、膜電位上昇→血流改善→体温上昇→代謝促進→改善、治癒

(3) エネルギーの方向付けによる違い。

- 1) 近位～遠位…リラクゼーション／筋肉・関節の弛緩・可動性／の向上。
- 2) 遠位～近位…興奮・機能亢進／筋出力、関節固定力／の向上。

(3) 2点間を用いることのメリット。

治療部位そのものをターゲットとしてエネルギー療法を行っても効果が出にくい場合には、その治療部位はあくまでもエネルギーの通過点として捉え、その治療部位の向こう側にある受け手で、送り手からのエネルギーを感じる事に意識を集中すると、効果が出やすくなる場合も多い(治療部位そのものを含めた、その周辺部位全体のエネルギーの『透過性』を高めるイメージ…)。

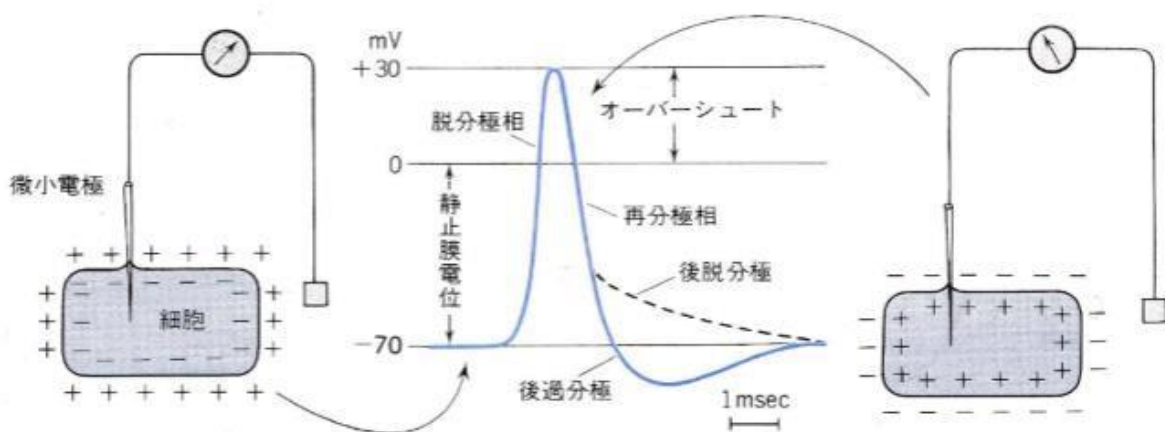
(4) 膜電位の上昇。

神経や筋肉が「興奮」を起こす膜電位は、 -70 mV (ミリボルト) $\sim +30\text{ mV}$ (ミリボルト) の間であり、膜電位が静止膜電位からゼロになる方向に向かって変化することを、脱分極と言いい、細胞の内部が外部に対してプラスになる事を、オーバーシュート(極性逆転)と言いう。

一説によると『筋肉が収縮に向かう電圧の閾値は平均的に -55 mV (ミリボルト) である…。』と言われており、慢性的に機能低下してしまった筋肉は、この筋肉が収縮に向かう電圧の閾値が、これを下回ってしまっており、かなり早い段階でオーバーシュートしてしまう。

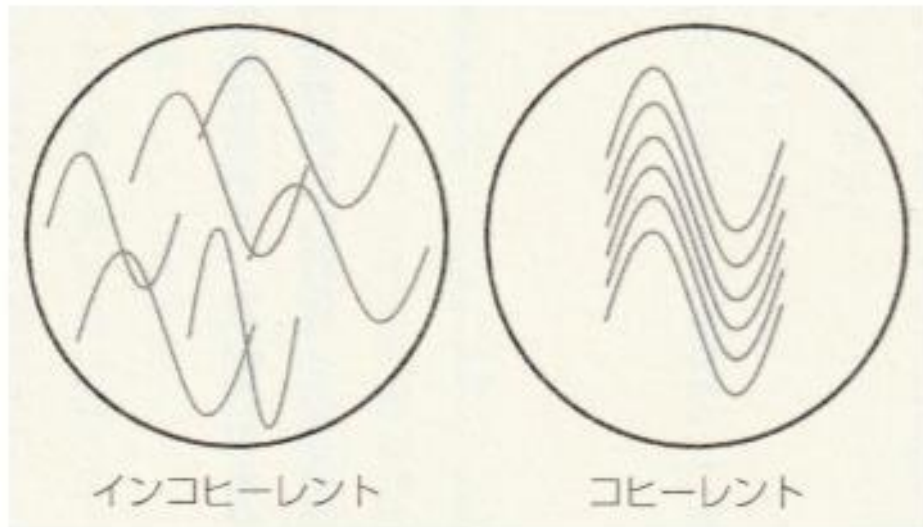
これは、『慢性的に、わずかな重力負荷や、運動負荷にさらされただけでも、そのとたんに筋肉がギュッと収縮方向に向かって縮んでしまい、正常な筋機能を発揮することが出来なくなっている状態…。』という事になる(筋肉の閾値低下…)。

この意味において、エネルギー療法の施術によって発生する『膜電位の上昇』は、この様な『閾値低下』の問題の解消にも役立つ可能性がある。



活動電位が発生するときの膜電位の変化

(5) コヒーレント振動／フローリッヒ振動。



◆ (以下、『エネルギー医学の原理』その科学的根拠：医学社エンタプライズ... 62頁より)

フローリッヒは1960年代後半に量子物理学の理論を踏まえて、生体マトリックスが位相のそろった振動波、つまりレーザーのような振動波を発生させているはずだと、すでに予測していた。

彼の予測は、その後多くの研究者たちによって証明されている。光などの振動現象に関しては、生体における役割がエネルギー療法の世界では常に重視されてきたが、分子化学の専門家たちの関心は別のところにあったのである。

フローリッヒらの研究の結果、今では生体マトリックスのすべての要素が振動していることが明らかになり、生体内で生じた振動が周囲の環境に伝わっていることもわかっている。

生体組織の振動の波長はじつに多様で、可視光線や近可視光線の波長も含まれている。この現象はミクロなレベルのものではなく、マクロな、非常に大きなレベルで起きており、その作用も微々たるものではない。生物の構造はかぎりなく巧妙で、コヒーレント振動（光や物質波の位相をもつ振動）によって伝えられる情報には、きわめて敏感だからである。

コヒーレント振動には境界がない。分子や細胞、あるいは生物そのものの表面で遮断されることがないのである。したがって、この振動は1個の生物全体を集約した特性といえる。それゆえ、コヒーレント振動によって伝わる情報が、成長、損傷の修復、防御反応といった機能や1個の生物としての活動をまとめあげていると考えられるのだ。

個々の分子、細胞、組織そして臓器・器官には、それぞれの活動を調和させる理想的な共鳴波長がある。補完療法のセラピストたちは、この振動に直接働きかけてバランスを保つことにより、全身の防御機能や修復機能を回復あるいは維持させているわけである。